

令和元年度 瑞穂台小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤として，よい校風の樹立と21世紀を担う人づくりを目指し，社会の変化に主体的に対応できる健康で心豊かなたくましい人間の育成を図る。

(2) 具体目標

- ・ 明るく 健康な子
- ・ よく考え 自ら学ぶ子
- ・ 心豊かで，思いやりのある子
- ・ きまりを守り 進んで働く子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

瑞穂台小の合い言葉「よく学び 心のふるさと みずほだい」を児童・教職員・保護者・地域の共通の目標に設定し，「学び」と「ふるさとづくり」を全教育活動の柱とすることで，知・徳・体バランスのとれた子どもの育成をめざすものである。

小学校は，子どもが社会において自立的に生きるための基盤を育んでいく場所であり，多様な経験を通して学んでいく（成長していく）場所である。個人内評価（個の成長を認めること）を基本に，授業の充実・改善や個に応じた支援の充実等を通して，児童一人一人にとって居がいのある学校づくりを目指す。

また，職員は常に「授業改善」「危機意識」「立場理解」「目的意識」を大切にし，教育目標の具現化に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

—学びと居場所のある響き合う学校づくり—

児童の「学び（個の成長）」と「居場所（認められる場所）」を保障するため，児童・教員・保護者・地域それぞれが互いに理解（どうして），共感（なるほど），創造（それじゃ）を意識しながら響き合っている学校を目指していく。

○[瑞穂野地域学校園教育ビジョン]

9年間の連続した学びの中で「生きる」力を育てる小中一貫教育

—瑞穂野地域学力向上プロジェクト—

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，学校教育法施行規則，小学校学習指導要領に示された，教育の目標や内容，本県「幼稚園・小学校・中学校 指導の指針」，本市「うつのみやいきいき学校プラン・学校教育スタンダード」，宇都宮市立学校の管理運営に関する規則第7条に基づき，本校の実態・地域の実情を踏まえ，教職員，児童，保護者，地域の知恵の総合として教育課程を編成する。
- (2) 教育活動全体を通じて，児童の発達の段階や各教科等の特質に応じ，豊かな心とよりよく問題を解決する資質や能力を持ち，たくましく生きる人間の育成を目指し，基礎的・基本的な内容を重視しながら，創意工夫を生かした特色ある学校づくりを目指した教育課程の編成を図る。
- (3) 各教科，特別活動並びに総合的な学習の時間，道徳を相互に関連付け，小中一貫教育の視点を生かし，教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるように教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

(ア) 学びのある学校

- ① 基本的な学習態度・習慣の形成 ・ 学習の約束 ・ ノート指導，家庭学習の習慣化 等
- ② 自分の学びを意識できる学習の工夫
・ ねらいが明確な授業 ・ 「分かった」「できた」を実感できる振り返り 等
- ③ 基礎基本の定着と思考力・活用力形成のための授業の工夫・改善
・ 校内研修の充実 ・ 主体的・協働的で深い学びを実現するための授業実践 等

(イ) 居場所のある学校

- ① 心を育む場の改善
・ 相手の立場や気持ちを考えて行動する実践力（あいさつ・言葉遣い等）の育成
「心を育む時間」の効果的 「みずだい3つの約束」
・ 道徳の教科化に向けた研修の実施（道徳の指導及び評価 等）

・ いじめゼロに向けた取組の推進 ② ふるさとづくりの継続・発展 ③ 特別活動の充実・改善	・ なかよし瑞穂野の効果的・効率的展開の工夫 ・ 児童の主体性を育む学校行事，縦割り班活動，委員会活動等の改善
【学 習 指 導】 ○ 各教科の基礎・基本の定着 ○ 思考力・活用力の育成（主体的，対話的で深い学びの手法を取り入れた指導の工夫）	
【児 童 生 徒 指 導】 ○ 時と場に応じたあいさつや，相手の気持ちを考えた言葉遣いのできる児童の育成	
【健康（保健安全・食育）・体力】 ○ 自らの健康を考え，目標に向かって挑戦していく児童の育成	

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は，授業中，話をしっかりと聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①ペア学習やグループ学習を取り入れ，主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の研究を進め，既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり，「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりする。 ②「自分の考えを相手にわかりやすく伝える話し方」に課題が見られる。発達段階に応じて，正しく効果的な話し方を指導し，話し合って友達と学び合うことの良さ・楽しさを味わえるようにする。	B	【達成状況】 A1については，保護者の肯定的回答が92.1%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①自分の考えを書く力が高まってきており，ペア学習・グループ学習に意欲的に取り組めるようになってきている。これまでのように，既習内容を生かして自分の考えを持つことができるような課題を設定したり，「友達の考えを知る」「自分の考えを発信する」楽しさを感じられるような場面を授業の中に位置づけたりする。 ②「自分の考えを相手にわかりやすく伝える話し方」に課題が見られる。相手意識をもち，目的意識をもって対話できるように発達段階に応じた指導を行う。
	A 2 児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「心を育む時間」を学級活動や道徳の時間に取り入れ，相手の気持ちを考えた言動ができるよう児童の意識の向上に努める。 ②「みず台3つの約束」を柱として児童指導を行い，児童の意識化を図る。 ③人権週間や教育相談の充実を図る。 ④学年で連携を図ったり，職員会議で問題行動を行う児童の情報を職員で共有したりしながら早期発見・対応に努める。	A	【達成状況】 A2については，保護者の肯定的回答が85.8%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①「心を育む時間」を計画的に学級活動や道徳の時間に取り入れ，相手の気持ちを考えた言動ができるよう，児童の実態に応じた指導に努める。 ②「みず台3つの約束」を朝会で扱い，児童の意識化を図る。 ③これまで同様に，人権週間や教育相談の充実を図る。 ④問題行動の早期発見・対応に努めるために，職員間の連携を密にし，ワンチームで取り組む。

目 指 す 児 童 の 姿	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「みず台3つの約束」である「元気なあいさつ」「だれにも親切」「正しい言葉づかい」を児童指導の柱として、常時生活の中で児童に意識させながら引き続き力を入れて指導していく。また、集会時に全校で唱和することで生活目標やあいさつ運動等と関連づけながら意識化を図っていききたい。 ②授業や生活のきまりについて、よい子の一日やよい子の学習のきまりを活用して指導していく。	【達成状況】 A3においては、児童の肯定的回答が83.3%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①「みず台3つの約束」を児童指導の柱として、生活当番とも連携して今後も日常生活の中で児童に意識させながら引き続き力を入れて指導していく。 ②よい子の一日やよい子の学習のきまりを活用して、今後も学校生活におけるきまりやマナーについて引き続き指導していく。
	A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	①教職員が積極的にあいさつを行い、正しい言葉づかいを心がけるとともに、日常の指導の中で「みず台3つの約束」の「元気なあいさつ」を掲げながら児童の意識化を図っていく。 ②給食時の放送で周知したり、当番児童はたすきを着用したりして、さらに力を入れて定期的に児童会によるあいさつ運動を行う。 ③あいさつだけでなく、礼儀や目上の人に対する言葉づかいを学校で指導するとともに、懇談会や学年だよりの「心のふるさと」にも盛り込みながら保護者にも呼びかけ、家庭での指導をお願いしていく。	【達成状況】 A4については、保護者の肯定的回答が73.7%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①教職員が率先してあいさつを行うとともに、日常の指導の中で「みず台3つの約束」の「だれにもあいさつ」を掲げながら児童の意識化を図っていく。 ②児童会を中心に放送で呼びかけたり、当番児童はたすきを着用してあいさつ運動に参加したりして、今後もさらに力を入れてあいさつ運動を行っていく。また、運営委員会児童による業間や昼休みのあいさつ巡回も継続して行っていく。 ③「みず台3つの約束」の「正しい言葉づかい」を掲げ指導を継続すると共に、学年だよりの「心のふるさと」にも盛り込むことで家庭との連携を図りながら指導を進めていく。
	A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学校教育目標や学年目標をふまえ、学期ごとに個人目標を掲げさせ、それを達成するために頑張る意欲を継続させるとともに、帰りの会や学級活動で振り返りを行う。 ②各種検定表、がんばりカードをもとに自分の目標を設定し、意欲を高め、継続的实践しようとする態度を育む。 ③「宮っ子心の教育表彰」や「学校長表彰」を活用し、児童の良さや努力等を励ます教育を推進する。	【達成状況】 A5については、児童の肯定的回答が87.6%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①学校教育目標や学年目標をふまえ、学期ごとに個人目標を掲げさせ、それを達成するために自己評価を進めるとともに、月ごとに振り返る機会を設ける。 ②各種検定表を利用し、遊具、縄跳び練習板、逆上がり補助具等を活用するとともに、運動委員会活動と協力し、工夫した遊びや自主練習を支援する。 ③「宮っ子心の教育表彰」や「学校長表彰」を活用し、児童の良さや努力等を励ます教育を推進する。

目 指 す 児 童 の 姿	A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①健康診断の結果のお知らせや<u>小中一貫の健康票の活用</u>、養護教諭の保健指導を通して、自分の健康に関心がもてるようにする。 ②災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。 ③児童数の増加により、遊具の数や外遊びのスペースが減少したため、教室等でもできる運動プログラムを検討する。 (朝の会の時間を利用した1分間体操、運動委員会による業間や昼休みに外遊びを奨励する呼びかけ等)	【達成状況】 A6については、児童の肯定的回答が90.6%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①健康診断の結果のお知らせや<u>小中一貫の健康票の活用</u>、養護教諭の保健指導を通して、自分の健康に関心がもてるようにする。 4年の保健領域「育ちゆく体とわたし」で養護教諭とのT.Tを行い、専門的な知識を学べるようにする。 ②災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。 ③児童数の増加により、遊具の数や外遊びのスペースが減少したため、教室等でもできる運動プログラムを各学年体育部で検討し、学年に広める。
	A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学級活動や帰りの会などで、自己の成長を振り返る場を設定する。 ②体験的な学習の場を設定し、協働する力を育む教育活動を推進する。 ③地域や各種団体と連携して学校だよりや学年だより等で、児童や保護者に情報を提供し、地域の行事などに積極的に参加できるようにする。	【達成状況】 A7については、児童の肯定的回答が87.6%で目標を達成できたが、保護者の肯定的回答が72.2%であった。 【次年度の方針】 ①自己の成長を実感できるように、振り返りの場を大切にしたい授業を展開したり、教師が児童の成長を認め励ます機会を設定したりしていく。 ②年間活動計画の中に体験的な学習の場を設定し、協働する力を育む教育活動を推進する。 ③瑞台夏まつり、瑞穂台どんどん焼きなどの行事や瑞穂野あいさつ運動などの際に児童や保護者に情報を提供し、様々な行事などに積極的に参加できるようにする。
	A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①外国語活動の時間、教員が英語を使って児童とコミュニケーションを取るとともに、ゲームなどを通してALTと積極的にコミュニケーションを図る授業を展開する。 ②ALTを活用した、英語によるやり取りを中心とした授業を展開する。 ③ALTとの交流給食や昼休みの時間等一緒に遊ぶことで、生きた英語に触れる機会の充実を図る。	【達成状況】 A8については、児童の肯定的回答が89.6%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①次年度も引き続き、外国語活動の時間、教員が英語を使って児童とコミュニケーションを取るとともに、ゲームなどを通してALTと積極的にコミュニケーションを図る授業を展開していく。 ②英語専科教諭を中心に、児童が楽しく学習できるよう、バリエーション豊富なゲームを考えるようにする。また、児童が英語を数多く話すような場面を設定することで、英語に触れる機会を多くしていく。 ③次年度も引き続き、ALTとの交流給食や昼休みの時間等一緒に遊ぶことで、触れ合う機会を多くする。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①生活科、総合的な学習の時間、社会科などで、瑞穂野地区や宇都宮市の施設、歴史、食や伝統文化などに触れた学習を展開する。 ②地域の伝統文化（瑞台まつり、どんどん焼き、蛍のタベなど）を大切に継承していく心を育む。 ③百人一首に親しむことのできる学習に取り組むとともに、郷土に対する誇りや愛情を育む。	【達成状況】 A9については、児童の肯定的回答が74.5%で目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ①教科等で触れるだけでなく、瑞穂野地区や宇都宮市の施設、歴史、食や伝統文化などに触れて展開し、良さを実感できるようにする。 ②次年度も引き続き、参加するよう勧めたり、意図的に話をしたりして、地域の伝統文化（瑞台まつり、どんどん焼き、蛍のタベなど）を大切に継承していく心を育む。 ③百人一首と宇都宮を繋げて考えられるように、掲示物などを工夫して視覚的にとらえられるようにしていく。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①生活科・総合的な学習の時間の課題や、社会科の歴史等について、パソコンや図書を参考に調べ学習を進めていく。 ②生活科や理科の学習等で、デジタルカメラで撮った写真や実物投影機を活用し、観察や発表に生かす。 ③課題発見・解決のために必要な資料等を市立図書館や<u>地域学校園内の学校から借りる</u>など連携を図る。	【達成状況】 A10については、児童の肯定的回答が75.1%で、目標を達成することができなかった。低学年は図書を活用した学習を取り入れているが、パソコンを活用する機会が少ないために低い値となってしまった。 【次年度の方針】 ①低学年は図書学習を中心に、高学年はICT機器を活用した授業を展開していく。 ②次年度も引き続き、生活科や理科の学習等で、デジタルカメラで撮った写真や実物投影機を活用し、観察や発表に生かしていく。 ③次年度に引き続き、課題発見・解決のために必要な資料等を市立図書館や地域学校園内の学校から借りるなどの連携を図っていく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①生活科や総合的な学習の時間などにおいて、高齢者と交流する活動の場を設定する。 ②昔遊びや昔体験などの活動を通して、地域住民と交流を深め、高齢者に対する感謝の気持ちやいたわりの心を育てる。 ③運動会への高齢者を招待し、全校児童で感謝の気持ちを作文で表現できるようにする。 ④敬老会に参加して活動することで、相手意識や目的意識をもって高齢者と接することができるようにする。	【達成状況】 A11については、保護者の肯定的回答が85.8%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①1年生の生活科「昔遊び」や3年生の総合的な学習の時間や社会科の体験の活動を通して、地域住民と交流を深め、高齢者に対する感謝の気持ちやいたわりの心を育てる。 ②運動会に高齢者を招待し、感謝の言葉を伝える機会を設定し表現できるようにする。 ③5年生が敬老会に参加して活動することで、相手意識や目的意識をもって高齢者と接することができるようにする。

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①学校農園や花壇の整備、田植えや小動物の世話などの体験活動を通して、自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さを学ばせる。 ②総合的な学習の時間を活用し、環境問題や国際理解、防災や食をテーマとして、地球や世界の学習素材を生かした学習を実践する。	A	【達成状況】 A12については、児童の肯定的回答が81.4%で目標を達成することができたが、教職員の肯定的回答は38.2%で課題が見られる。 【次年度の方針】 ①ごみの分別や節電、節水の励行を通して、持続可能な社会の一員としての自覚を促す。 ②学校農園や花壇の整備、田植えや稲刈り、小動物の世話などの体験活動を通して、自然の恵みへの感謝の気持ちや命の大切さを学ばせる。 ③総合的な学習の時間を活用し、環境問題や国際理解、防災や食をテーマとして、地球や世界の学習素材を生かした学習を実践する。
目指す学校の姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①校内支援委員会を定期的に実施し、特別な支援を必要とする児童に関する情報交換や共通理解を図り、組織的な支援を行う。 ②校内支援委員会及びケース会議において、かがやきルームの指導が適切であるか検討し、具体化された個別の指導計画のもと指導の充実を図る。 ③「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」の活用し適切な支援にあたる。	A	【達成状況】 A13については、教職員の肯定的回答が100%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①校内支援委員会の定期的な開催と、職員会議後の情報交換を実施することで、特別な支援を必要とする児童に関する情報を共有し、今後も組織的に対応していく。 ②来年度も引き続き校内支援委員会及びケース会議において、かがやきルームの指導が適切であるか検討し、具体化された個別の指導計画のもと指導の充実を図る。 ③「宇都宮市学校教育における合理的配慮に係る手引き」の活用し適切な支援にあたる。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①HPだけでなく、児童指導だよりの発行回数を増やして、いじめゼロ強調月間や人権週間などの活動について保護者へ積極的に発信していく。 ②本年度も学年だよりに「心のふるさと」コーナーを設け、各学年の取り組みや活動を知らせていく。 ③いじめ振り返り心のチェックシート5を活用する。(各クラス)	B	【達成状況】 A14については、児童の肯定的回答が98.3%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①HPや児童指導だよりにだけでなく、学級懇願会や学校だよりにでも学校のいじめ対策方針について保護者へ積極的に発信していくとともに、いじめゼロ集会や人権週間を活用し、子供達にも積極的に発信していく。 ②来年度も学年だよりに「心のふるさと」コーナーを設け、各学年の取り組みや活動を知らせていくとともに、道徳や学級活動の時間にもいじめについて取り上げ指導していく。 ③いじめ振り返り心のチェックシート5だけでなく、定期的にいじめゼロアンケートを実施することでいじめの未然防止に努める。

目 指 す 学 校 の 姿	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①SC と連携をとったり教育相談を充実させたりして児童一人一人に寄り添い、居がい感のある学級経営を実践する。 ②道徳や学級活動の時間を活用して、クラスの友達との交流を深め、互いの良さに気付かせるとともに、思いやりの心を育む。 ③欠席した際には、1日の出来事や学習内容を手紙にして届けるとともに、電話で連絡をしたり、家庭訪問をして様子を見たりする。	A 【達成状況】 A15については、児童の肯定的回答が95.0%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①関係職員やSCと共通理解を図り、連携をとって組織的に対応できるようにする。さらに、教育相談を充実させ、児童一人一人に寄り添い、居がい感のある学級経営を実践する。 ②道徳や学級活動の時間を活用して、クラスの友達との交流を深め、互いの良さに気付かせるとともに、思いやりの心を育む。 ③欠席した際には、1日の出来事や学習内容を手紙にして届けるとともに、電話で連絡をしたり、家庭訪問をして様子を見たりする。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①外国人児童の編入の面接時、日本語の習得状況により、編入前にはばたき教室への通級を勧めるとともに、母語で日本語を指導する母語指導者や日本語による日本語指導のボランティアを派遣するなどして支援にあたる。 ②保護者への通訳や保護者への通知文の翻訳を市教委へ依頼する。	A 【達成状況】 A16については、教職員の肯定的回答が100%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①外国人児童の編入の面接時、日本語の習得状況により、編入前にはばたき教室への通級を勧めるとともに、母語で日本語を指導する母語指導者や日本語による日本語指導のボランティアを派遣するなどして支援にあたる。 ②保護者への通訳や保護者への通知文の翻訳を市教委へ依頼する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①個々の良さを認め、児童一人一人が居がいのある教室を目指し、学級経営をさらに充実させる。 ②楽しく分かる授業の工夫をしたり、さまざまな教科で話し合い活動を重視したりする中で、児童一人一人が居場所のある学級・学校づくりをさらに目指す。 ③なかよし瑞穂野などの異年齢集団活動を進め、また、児童会活動を充実させる。児童一人一人が主体的に活動し、自分の良さが発揮できるようにする。	B 【達成状況】 A17については、児童の肯定的回答が88.4%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①学級満足度調査やQ-Uなどを行い、客観的に児童の実態を把握し、学級経営に生かす。 ②楽しく分かる授業の工夫をしたり、さまざまな教科で話し合い活動を重視したりする中で、児童一人一人が居場所のある学級・学校づくりをさらに目指していく。 ③なかよし瑞穂野の異年齢集団での関わりを大切に、共遊や清掃活動に生かしたり、児童会活動を行ったりして、児童一人一人が主体的に活動し、自分の良さに気づき、そのよさが発揮できるように支援する。

目	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「教職員は、児童生徒一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図り、児童が授業での学びを実感、自覚できるようにする。 ②ノート作りにおいては、教科間、学年・学級・コース間で記述内容に大きな差が生じないように共通理解を図りながら進めるようにし、分かったことをしっかりとまとめることができるように指導する。 ③学習で使う言葉・用語について、教科の内容に即して児童が正しく覚えて活用できるように指導の徹底を図る。 ④学力向上プロジェクトによる「家庭学習のすすめ」を示し、保護者の理解を得ながら家庭学習を通して学習内容の確実な定着を図れるようにする。また、「自主学習メニュー」を活用し、より自主的な学習を進められるようにする。 ⑤習熟度別学習においては、児童が習熟度別コースの内容をよく理解して自分に合った選択をし、効果的な学習ができるように適切な支援を行う。また、学習内容によっては学習形態を工夫して、より適切な支援を行う。 ⑥学力向上に向けた取組について HP や懇談などで保護者にも発信しながら、啓発を行う。	【達成状況】 A18 については、保護者の肯定的回答が 82.4%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①次年度も引き続き、「めあて」の明確化と「振り返り」の充実を図り、児童が授業で学びを実感、自覚できるようにする。 ②次年度も引き続き、ノート作りにおいては、教科間、学年・学級・コース間で記述内容に大きな差が生じないように共通理解を図りながら進めるようにし、分かったことをしっかりとまとめることができるように指導する。 ③次年度も引き続き、学習で使う言葉・用語について、教科の内容に即して児童が正しく覚えて活用できるように指導の徹底を図る。 ④次年度も引き続き、学力向上プロジェクトによる「家庭学習のすすめ」を示し、保護者の理解を得ながら家庭学習を通して学習内容の確実な定着を図れるようにする。また、「自主学習メニュー」を活用し、より自主的な学習を進められるようにする。 ⑤習熟度別学習では、基礎・基本の定着をさせるだけでなく、児童がより学力を活用し伸びるような授業の工夫をしていく。 ⑥引き続き、学力向上に向けた取組について、HP や懇談などで保護者にも発信しながら啓発を行う。
指 す 学 校 の 姿	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図る。 ②学校図書館司書、栄養教諭、特別支援学級非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー等と連携した取組の充実を図る。 ③インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用し、<u>地域学校園の事務職員が連携</u>して学校事務を共同実施し、業務の負担軽減に努める。	【達成状況】 A19 については、教職員の肯定的回答が 94.3%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図る。 ②学校図書館司書、栄養教諭、特別支援学級非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー等と連携した取組の充実を図る。 ③インターネットバンキングや学校徴収金システム等を活用し、<u>地域学校園の事務職員が連携</u>して学校事務を共同実施することで、業務の負担軽減に努める。

目 指 す 学 校 の 姿	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒全教職員の肯定的回答 80%以上	①校務分掌の偏りがないようにするとともに、内容を精選し見直しを図っていく。 ②学校行事ごとの反省をもとに、次年度効率的に実施できるよう、改善を図っていく。 ③職員会議や打ち合わせの際には、データで周知し、ペーパーレスを目指すことで、負担の軽減を図る。 ④毎月、リフレッシュデーを設定し意識して勤務するようにする。	【達成状況】 A20 については、教職員の肯定的回答が 73.5%で目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ①校務分掌の偏りがないようにするとともに、内容を精選し見直しを図っていく。 ②学校行事ごとの反省をもとに、次年度効率的に実施できるよう、改善を図っていく。 ③企画会議を定期的に行い、職員会議の効率化を図る。印刷が必要なものの以外はペーパーレス化を図り、負担を軽減する。 ④毎月、登校指導とリフレッシュデーを同日に設定するとともに、その日は放課後の会議などを軽減し、定時退勤しやすい環境を作る。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①児童生徒指導強化連絡会や小小連携、小中連携学校行事などを大切にし、児童の育成を図る。 ②小中乗り入れ授業の充実を図る。 ③学校間の相互支援による学校事務の効率化を図る。	【達成状況】 A21 については、保護者の肯定的回答が 76.7%で目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ①4校連校長会、児童生徒指導強化連絡会や小小連携、小中連携、学校行事などを大切にし、児童の育成を図る。また、学校行事等について共通理解を図り、4校連の地域学校園としての取り組みを行う。 ②6年生の小中乗り入れ授業、中学校訪問等を行い、中1ギャップの対策を学校園として行う。 ③地域学校園事務室を推進する。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①社会や生活科、総合学習（蛍の飼育・地域学習）、算数（そろばん）など様々な学習に地域ボランティアに関わっていただき、開かれた学校、地域の学校を目指していく。 ②学校教育課の「学習への協力を得ている企業・官公庁等」のリストや文化課の出前授業リストを活用し、学年に応じた特色ある教育活動を展開していく。	【達成状況】 A22 については、保護者の肯定的回答が 90.8%で、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①今年度もたくさんの地域ボランティアに関わって頂き、開かれた学校、地域の学校を目指した活動を行い、充実した教育活動が実施された。次年度も積極的に地域ボランティアを活用した授業を展開していきたい。 ②今年度同様、出前授業リストなどを活用し、学年に応じた特色ある教育活動を展開していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①保護者による登校指導，地域ボランティアや教職員による下校指導を充実させ，保護者・地域との連携を図りながら児童の安全確保に努める。 ②授業参観やフリー参観などによる学校公開の推進を行う。年に一度の道徳の授業公開の実施。 ③地域ボランティアを積極的に活用し，地域の歴史や自然，産業等について話をしてもらう。 ④蛍水会による，ホテルの飼育の仕方や上陸セットの作り方の指導等を通して，「心のふるさと みずほだい」をテーマに郷土愛を育てる。	B	【達成状況】 A23 については，保護者の肯定的回答が90.8%で，目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①今年度同様，保護者による登校指導，地域ボランティアや教職員による下校指導を充実させる。また，地域や保護者の意見に耳を傾け，できるかぎりの安全確保に努める。 ②次年度も引き続き学校行事・授業参観・オープンスクール・土曜授業等で児童の多様な教育活動の様子がみられるように学校を公開していく。 ③④次年度も引き続き，地域ボランティアを積極的に活用し，地域の歴史や自然，産業等について話をしてもらうことで，郷土愛を育てていく。
A24 学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①学校施設・設備について，事故の原因になる危険箇所を未然に発見し，それらを速やかに除去し，児童が学校生活を安全に送れるようにする。 ②毎月1回，全職員が点検担当場所を点検し，修理改善等が必要な場合には，早急に処置する。 ③児童が安全に学校生活を送れるようにする，点検日以外にも日常の安全点検を心がける。	A	【達成状況】 A24 については，保護者の肯定的回答率が86.7%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①学校施設・設備について，事故の原因になる危険箇所を未然に発見し，それらを速やかに除去し，児童が安全に学校生活を送れるようにする。 ②毎月1回の安全点検の方法を学年ごとに変更し，複数の目で確認することにした。修理改善等が必要な場合には，早急に処置する。 ③児童が安全に学校生活を送れるようにする。点検日以外にも日常の安全点検を心がける。
A25 学校は，学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 「児童は，パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①各教科において，ICT機器を効果的に活用して，学習の理解を深めるために学校図書館司書と連携し，学習に必要な図書を充実させる。 ②課題の発見や解決のために必要な資料等を市立図書館や<u>地域学校園内の学校から借りる</u>など連携を図る。 ③ICT機器や学習に必要なスペースや備品の整備を行う。	A	【達成状況】 A25については，児童の肯定的回答が75.1%で，目標を達成することができなかった。低学年は，図書の活用は行っているが，パソコンを活用する機会が少なかった。 【次年度の方針】 ①引き続き各教科において，ICT機器を効果的に活用していく。学習の理解を深めるために学校図書館司書と連携を密にし，学習に必要な図書を充実させる。 ②次年度も引き続き，課題の発見や解決のために必要な資料等を市立図書館や地域学校園内の学校から借りるなどして連携を図り，充実した学習ができるようにしていく。 ③引き続き，ICT機器や学習に必要なスペースや備品の整備を進めていく。

本校の特色・課題等	B1 児童は、友達の意見をよく聞き、話し合っている。 【数値指標】 「わたしは、友達の意見をよく聞き話し合っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①国語の教科書に沿った進め方で、発達段階に応じた正しい話し方・聞き方の定着を図り、国語の時間以外の生活で生かせるように意識づける。 ②教科にこだわらず、小グループでの話し合い活動を意図的に設定する。 ③朝の会・帰りの会でスピーチの時間を位置づけるなど、常時活動として言葉でやりとりをする場面を設定する。	B	【達成状況】 B1については、児童の肯定的回答が89.7%で、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①引き続き、国語を中心に正しい話し方・聞き方の定着を図り、国語の時間以外の生活で生かせるようにしていく。 ②次年度も引き続き、各教科で機会をとらえて、小グループでの話し合い活動の場を設ける。 ③引き続き、朝の会・帰りの会でスピーチの時間を位置づけるなどし、常時活動として言葉でやりとりをする場を設ける。
	B2 児童は、縦割り班やグループで、協力し合って活動している。 【数値指標】 「わたしは、縦割り班やグループで協力し合って活動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①縦割り班活動の内容を事前に教師が共通理解した上で支援し、児童が活動に見通しを持って主体的に取り組めるようにする。 ②縦割り班活動の中に学び合いの活動を取り入れ、上級生の自覚とリーダー性を養う。		【達成状況】 B2については、児童の肯定的回答が91.4%で目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①縦割り班活動の内容を事前に教師が共通理解した上で支援し、児童が活動に見通しをもって主体的に取り組めるようにする。 ②縦割り班を活用し、コミュニケーションの在り方や協力して活動することの大切さを実感できるような体験活動の場を設定し、支援する。
本校の特色・課題等	B3 児童は、工夫してノートづくりをし、考える力がついてきている。 【数値指標】 「児童は考える力が付いてきて、工夫してノートを書いている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①教科書に沿ったノート作りを通して、考えたり記録したりすることの大切さと、正しく効果的なノートの書き方を学ばせる。 ②授業の振り返りにおいて、考えて学んだことを確認できるようなノートの記述になるように活動をパターン化・習慣化する。（「かがやくわ」の活用）また、教師によるコメント等、ノートを通した指導・評価を速やかに行い、次時の学習につなげられるようにする。 ③言葉の正しい使い方を指導し、話し言葉と書き言葉の使い分けができるようにする。 ④既習事項の復習をしっかりと行い、当該学年の学習に生かせるようにする。また、考えるために必要な既習事項を授業の中で具体的に示し、自分の考えの根拠として活用できるようにする。 ⑤主体的・対話的で深い学びを取り入れ、個人で、また友達と一緒に考える活動を授業に位置づける。	B	【達成状況】 B3については、保護者の肯定的回答が64.3%で目標を達成することができなかった。 【次年度の方針】 ①教科書に沿ったノート作りを通して、自分の考えや友達の考えを児童の発達段階に応じて、分かりやすく記録するような思考の見えるノートの書き方の指導を進めていく。 ②振り返りにおいて、「かがやくわ」を活用して、考えて学んだことを確認できるようにする。振り返りで出た児童の疑問等を取り出し、次時の学習に繋がれるようにする。 ③引き続き、言葉の正しい使い方を指導し、話し言葉と書き言葉の使い分けができるようにする。 ④考えるために必要な既習事項を授業の中で具体的に示し、自分の考えの根拠として活用できるようにする。 ⑤学習の目的に応じて効果的な学習形態を取り入れ、主体的・対話的な学習を進めて深い学びに繋げていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体アンケートの結果、全28の質問項目中、22項目で数値指標を超えたが、6項目で数値指標を下回った。
- ・【学校経営】の重点目標である「学びのある学校」に関連する評価項目である「児童は、進んで学習に取り組んでいる」では、保護者の肯定的回答が92.1%で数値指標を大きく上回り、昨年度よりも8.4%増加した。「居場所のある学校」に関連する評価項目である「A17 学校は活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」では、児童の肯定的回答が88.4%で数値

指標を上回ったが、昨年度より 2.9%減少した。また、「教職員の働き方に関する視点」に関連する評価項目である「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」では、数値指標を下回り 73.5%で、昨年度より 4.9%減少した。来年度も「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実践」や「ねらいが明確な授業、振り返り、言語活動の重視」「道徳科の授業改善及び推進（道徳的価値及び実践的態度の育成、道徳たより）」「いじめゼロに向けた取組の推進（児童指導により、アンケートの実施など）」に取り組んでいく。

・【学習指導】の重点目標である「各教科の基礎・基本の定着」「思考力・活用力の育成」に関連する評価項目である「A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」については、保護者の肯定的回答が82.4%と数値指標を上回り、昨年度よりも5.6%増加した。

・【児童指導】の重点目標である「時と場に応じたあいさつや、相手の気持ちを考えた言葉遣いのできる児童の育成」に関連する評価項目である「A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、保護者の肯定的回答率が73.7%で数値指標を下回ったが、昨年度よりも7.6%増加した。来年度も「みず台3つの約束」の「だれにもあいさつ」を掲げながら、教師が率先してあいさつをするとともに、代表委員会による「あいさつ運動・あいさつ当番」などの活動にも力を入れていきたい。

・【健康（体力・保健・食・安全）】の重点目標である「自らの健康を考え、目標に向かって継続して挑戦していく児童の育成」に関連する評価項目である「A4 児童は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる」については、児童の肯定的回答が 87.6%と数値指標を上回った。

7 学校関係者評価

・40周年記念誌は、よくまとまっていた。まとめるのが大変だったと思う。子供の夢が建築家や大工、栄養士などが多いかった。担任の先生も、昔は何になりたかったのか知りたいので、項目があるとよい。

・とても新鮮な2年間だった。学校で給食を食べたのも中学校卒業以来50年ぶりで、カルチャーショックだった。

・この地域は、人と人とのつながりが深い。下校の見守りやPTAの行事など、小さい頃から地域が子供を守ってくれる。ありのままの自分でいても、周りの大人や地域が理解してくれる。

・この地域の子供たちは、素直で真っすぐに育っている。成人式の市長メッセージの最中、私語が全くなかった。

・地域がしっかりしており、4校（瑞穂野中、瑞穂野北小、瑞穂野南小、瑞穂台小）が連携している。

・ICTの活用については、タブレットなどICT機器の使い方は上手で操作はできるが、新しいものを作り出したり、考えたりすることは苦手。考え方を身に付けるためにも、読書は大切。

・授業は、先生の技能によって差が出るのではないかと心配。総合的な学習の時間の授業を見た際、点訳体験、アイマスク体験をするために、ICT機器（実物投影機）を活用して説明していたが、分かりづらく実物を回して説明した方がよかった。ICT機器を使うことばかりに重点を置かず、便利なものを上手く使いこなすことが大切。

▼「A10」と「A12」の質問の内容をもっと分かりやすくすべき。

▼学校の環境について、花壇の雑草が特に夏場多い。子供たちに活動させるとよい。雑草かそうでないか、植物の体験的なことをさせるとよい。

▼学校は子供を教育する場で、税金や労働する意味の「持続可能な社会」の質問を入れるのはおかしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本年度のアンケート結果及び次年度の方針については理解を得ることができたので、さらに学校重点目標や児童の実態に合わせて改善を重ねていきたい。また、地域や家庭と共有する本校の合言葉「よく学び 心のふるさと みずほだい」を具現化することで、学校・家庭・地域が一体となり、本校ならではのよさ（特色）を意識した活動を展開していきたい。

【特色ある学校づくりのための具体的取組】

◇「学び」プロジェクト

① 学力向上プロジェクト

・基本的な学習内容を身に付けるために必要な「学び」を育成するためのカリキュラムや授業改善に努める。

② 外国語活動推進プロジェクト

・外国語によるコミュニケーションを通して、自分の思いや考えが深まったり広がったりすることを意識しながら、英語専科教員を中心として授業実践に取り組む。

◇「こころ」プロジェクト

① 道徳科推進プロジェクト

・人との関わり方を振り返り、豊かな人間性や思いやりの心などを育むとともに、授業において道徳的価値や実践的態度が高められるよう、教材開発や授業改善に努める。（「心を育む時間」の継続と他教育活動での深化・拡充など）

② なかよし瑞穂野発展プロジェクト

・本校伝統の「なかよし 瑞穂野」（縦割りグループで、地域の人・自然・施設などと関わる体験活動）を通し、異年齢集団の中で思いやりや協力の心を育むとともに、地域との関わりや自分が地域にできることを考える活動の推進・充実を図る。